

# 第1学年 音楽科学習指導案

指導者 田口祐二郎

1. 題材名 「リコーダーの魅力を知ろう」

2. 題材の目標

曲にふさわしい音色や奏法に気づき、表現することができるようにする。

3. 生徒と題材

(1) 生徒について

男子6名、女子9名、合計15名のクラスである。男女とも授業に対する取り組みは意欲的で男女とも協力して活動できる。歌唱表現においてはやや消極的な生徒もいるが、お互いに尊重しあう温かい雰囲気と前向きな雰囲気を持ったクラスである。

リコーダーを本格的に扱うのは本年度初めてであるため、生徒の実態もよくわからない状態であるが、様々な課題に積極的に取り組んでくれると思う。

(2) 題材について

この題材は「A表現 (1)ウ 楽器の基礎的な奏法を身に付け、美しい音色を工夫して表現すること。」に関わる学習である。

今回の学習では、本年度初めてリコーダーを扱うことになるため、生徒たちの読譜力やリコーダーの演奏力は未知の状態である。しかし、歌唱の活動においては、声量面ではまだまだ物足りないものがあるが、上級生やCDの演奏などに触れながら、曲に合った美しい発声、発音などに気づくことができるようになりつつある。また、11月11日に行われた大曲仙北小中学校音楽祭に参加したことにより、他校のダイナミックな演奏や楽しい演奏に触れ、多くのものを吸収してきた。

歌唱や鑑賞学習と並行して、音楽的な力をつけさせるねらいでリズム学習も行ってきたが、今回はさらに困難な学習になるだろうと思われるリコーダーの学習にも挑戦させたい。「ノリ」や「ムード」に頼るだけでなく、曲が求める美しい音色に目覚めさせ、その表現のために必要な技術を習得させたいと考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

リコーダーの学習が充実しない理由としては、まず楽譜通りに演奏するのが難しいために生徒たちが面倒くさになってしまうことがある。しかし、技術面の難しさに加え、リコーダーの楽器への期待感が薄いこともあると思われる。

千年も前から演奏され続けてきたリコーダーの魅力はなんと言っても、その音色や響きの美しさだと思う。強弱の表現が制約されているからこそ、シンプルな演奏の中に音楽の魅力を発見する努力が要求される。生徒たちがリコーダーの美しさに目覚めてくれるかどうか学習の1番のポイントになると考える。リコーダー演奏の基礎となるのは「美しい響き」「正しい呼吸と音程に支えられたユニゾン・ハーモニーの美しさ」曲に応じたリズム・アーティキュレーションの表現」

「フレーズ感を生かしたブレス」などの要素である。教師や他の仲間の演奏などからそれらの要素に気づくように取り組んでいかせたい。

そのためにも魅力的な曲の提供が必要になってくる。リコーダーの魅力が十分に発揮されるような曲選びにも配慮したい。さらにリコーダーの学習はかなりの集中力を要求されるため、1時間いっぱいリコーダーの演奏では集中力がとぎれてしまうことも予想される。そのため、歌唱やリズム学習、または簡単なリズムアンサンブルも一緒に学習させていきたい。

#### 4. 教材について

##### (1) 「アンダンティーノ」( J. ケフナー 作曲 柳生 力 編曲 )

まさにシンプルな曲であるが、ポルタート奏法が要求される。技術面で不安がある生徒にとっては難しい奏法である。

それと、最初の「み」の音をしっかりした響きで鳴らすのがまず最初の課題かもしれない。この音をしっかりとした響きで、音程を合わせて演奏しないと、その後の表現には発展しにくい。さらに「一点ど」より下の音域は「あたたかく、ゆっくりな息」で、「一点れ」から上の音域は「すずしくて、速い息」で演奏させたい。

強弱の面では、2小節目に向けて自然なクレッシェンドを感じながら演奏させたい。後半の最初の2小節は山場なので、抑制をきかせながらもスピードのある音で伸び伸びと演奏させたい。

アーティキュレーションでは4小節目のスラーがあることで、メロディに優しさが加味されることを感じさせたい。

##### (2) 「崖の上のポニョ」( 久石 譲 作曲 )

今年の夏に公開された映画の主題歌であるが、生徒たちにメロディはインプットされていると思われるので譜読みの点ではいくらかスムーズに進むと思う。音域を考えればリコーダーの響きが生かされる曲だと考えて選んだ。このようにリコーダーの音色が生かされ、かつ生徒がそのとき「吹きたい」と思う曲を学習に取り入れることも大切にしていきたい。

この曲の課題は、最初の2小節が技術的に難しいだろうと思われる点と、スタッカートとスラーのアーティキュレーションを表現すること、低音から中音域までの音域をムラなく演奏することであろう。最後まで間違わないで吹けることにとらわれないで楽しく取り組ませたい。

##### (3) 参考教材 「打楽器のための小品」( 黒沢 吉徳 作曲 器楽の教科書 P 78 )

リズム学習の応用として、この曲の最初の4小節を使用する。ただし、生徒数が15名のため本来6パートのものを5パートにして使用する。

5. 学習活動と評価計画（5時間扱い）

【ねらい】曲にふさわしい音色や奏法に気づき、表現することができるようにする。

| 評価の観点<br>内容のまとめ | 音楽への関心<br>・意欲・態度 | 音楽的な感受<br>や表現の工夫 | 表現の技能 | 鑑賞の能力 |
|-----------------|------------------|------------------|-------|-------|
| 歌 唱             |                  |                  |       |       |
| 器 楽             |                  |                  |       |       |
| 創 作             |                  |                  |       |       |
| 鑑 賞             |                  |                  |       |       |

| 題 材 の 評 価 規 準                           |                                      |   |       |
|---|--------------------------------------|---|-------|
| 音楽への関心・意欲・態度                            | 音楽的な感受や表現の工夫                         | 表現の技能   | 鑑賞の能力 |
| リコーダーの基礎的な奏法や美しい音色に関心を持ち、演奏することに意欲的である。 | リコーダーの基礎的な演奏方法に気づき、曲にふさわしい表現を工夫している。 | リコーダーの基礎的な演奏方法や美しい音色に気を付けて、曲の持つイメージに合うような表現をする技能を身に付けている。 |       |

| 時<br>数                                    | ねらい | 学習内容<br>・ 主な学習活動   | 学習形態     | 教 材          | 具 体 の 評 価 規 準 ( 評 価 方 法 )                      |   |  |       | 努力を要する生徒への手立て  |
|---|-----|--|----------|--------------|--|---|--|-------|--|
|   |     |  |          |              | 音楽への関心・意欲・態度                                   | 音楽的な感受や表現の工夫                                    | 表現の技能  | 鑑賞の能力 |  |
| （<br>本<br>時<br>…<br>5<br>分<br>の<br>4<br>） |     | 曲にふさわしい音色や奏法に気づきながら、演奏することができる。<br><br>チューニングする。<br>・ 息の強さをコントロールしながら音程をそろえる。<br>・ さらに、音域によって息の出し方を調整する必要があることを確認する。 | 一斉<br>個人 | アンダン<br>ティーノ | 音楽の基礎的な事柄やリコーダーの基礎的な奏法の獲得に意欲を持っている。<br>(活動の様子) | リコーダーの基礎的な演奏技法に気付いている。<br>(活動の様子)               | 基礎的な技能を身に付けている。<br>(活動の様子)                             |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢や呼吸の仕方を指導したり、音が揺れないようになる状態に気づかせる。</li> <li>個別に指導する。</li> <li>聴き取るポイントを絞り込ませる。</li> <li>つまづいている点について重点的に指導する。</li> </ul> |
|   |     | 音名読みや指使いを確認しながら練習する。<br>・ メロディを音名ですらすら読む。  | 一斉<br>個人 |              |  |   |  |       |  |
|   |     | 曲にふさわしい響き、アーティキュレーションはどのようなものかを工夫する。<br>・ 教師や仲間の演奏を聴きながらより深く聴き取る。  | 一斉<br>個人 | 崖の上の<br>ポニョ  | リコーダーの基礎的な奏法や音色に関心を持つようとしている。<br>(活動・発言の様子)    | 曲の持つイメージを感じ取り、それにふさわしい演奏方を工夫している。<br>(活動・発言の様子) | 基礎的な演奏方法や美しい音色に気を付けて、曲の持つイメージに合うような表現をしている。<br>(活動の様子) |       |  |
|   |     | 曲にふさわしい音色や奏法に気づきながら、演奏することができる。  | 一斉<br>個人 |              |  |   |  |       |  |

6. 本時の学習（本時 4 / 5）

(1) ねらい 曲にふさわしい音色や奏法に気づき、表現することができるようにする。

(2) 学習活動の展開と評価

| 学 習 活 動                                     | 学習形態                  | 教 師 の か か わ り   | 評 価 の 観 点  |
|---|-----------------------|---|--|
| 1. 「今日のリズム」を手で打って演奏する。                      | ペア or<br>3人           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムボックスを鳴らす。</li> <li>・リズムに合ったリズムパターンを選んでおく。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲にふさわしい音色や奏法に気づき、表現することができる。<br/>(活動・演奏の様子)</li> </ul> |
| 2. 前の時間までの5つの「今日のリズム」を合わせてグループごとのアンサンブルをする。 | グループ                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・つまずいている生徒やグループを支援する。</li> </ul>   |  |
| 3. 歌集の中から選んで歌を歌う。                           | 一 斉                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで歌ったことのある曲を選んだ場合は、発声、発音、音程などの課題をポイントを押さえて指導する。</li> <li>・今まで歌ったことのない曲を選んだ場合、ピアノや教師の範唱に頼らなくても歌えるようにさせる。</li> </ul> |  |
| 4. リコーダーで「崖の上のポニョ」を演奏する。                    | 一 斉<br>個 人            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に全体で何回か演奏して、技術的な確認をする。</li> <li>・数人に演奏させて、誰の演奏（アーティキュレーション）がこの曲にふさわしいかを考えさせる。</li> </ul>                          |  |
| 5. リコーダーで「アンダンティーノ」を演奏する。                   | 一 斉<br>個 人<br><br>一 斉 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に全体で何回か演奏して、技術的な確認をする。</li> <li>・数人に演奏させて、誰の演奏（音色、響き、強弱、音程、アーティキュレーション）がこの曲にふさわしいかを考えさせる。</li> </ul>              |  |